

研究だより



せらにし小学校研究部
令和3年 1月18日
No.11

遅くなりましたが、12月9日に行われた第1学年の算数科の授業研究を振り返ります。

12月 9日(水) 算数科 第1学年「おおいほう すくないほう」
☆広島県教育委員会 丸山指導主事より

※主に事業のまとめとしてリーフレットの作成に関わることを中心にお話いただきました。リーフレットについては、フォローアップ担当の先生を中心に作成中です。

☆東部教育事務所 藤井指導主事より

・図を使うことの良さ 教師が児童に図を意図的に使わせる。

↓
問題解決できたことで良さを実感させるように。

・個への支援に関わって
図が文章題とつながっていない

問題文の理解
↓
数図ブロック(具体物)
↓
○図(半具体物)
↓
演算決定と計算

今日の課題 この部分でどんな支援をすればよかったか

・指導者に役立つポイントリスト(教育センター)を読むと良い。

・「勉強ってというのは、分からないということに慣れる練習をしているんだ。」



算数科の授業の中で、高学年で児童がつまずく単元が「割合」です。その素地となる内容が、今回の1年生の提案授業の内容だと思えます。「割合」に関する算数用語は、5年生で登場しますが、その内容は1年生からの積み上げだと思えます。そういった意味で、本校の児童に育成したい部分について、貴重な授業提案であったと思えます。

1年生 ・二つの数量を比較する場合、比較している量や、基準にする量に関心を向ける。
「赤い花は白い花より2本多い。」
→何が何よりどれだけ多いかを表現することは、「何の何に対する割合か」を表す大事な素地となる。

今回の授業内容だけではなく、1年生で学習する長さや広さの比較も「割合」の見方を育成することにつながっていきます。例えば、「机のたての長さは、横の長さよりえんぴつ〇本分短い。」「机の横の長さは、たての長さよりえんぴつ〇本長い」であれば、何を基準にし

て長い、短いと表現しているか、「いくつ分」などで「倍」の見方の素地を培うこととなります。そこから、2年生、3年生、4年生と指導が引き継がれていきます。

3学期ですので、学年のまとめをする時期へとなってきます。指導する学年で身に付けさせなければいけないことは、確実に身に付けさせられるようにしましょう。



「つばきっ子のツール」

担任の先生方に記入していただいたものをまとめたものです。実際に活用した領域を書いています。(下線があるものは、つばき学級のみのものです。)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①ブロック	A, C	A	A			
②絵	A, B, C, D	A, B, C, D	A	<u>A</u>	A	<u>C</u>
③○図	A, C	A, D	A	<u>A</u>	A	
④テープ図		A	A	A, C	A	A
⑤線分図		C	A, C	A	A, C	A, C
⑥数直線図	A	A		A	A, C	A
⑦関係図		A, C	A, C	A, C	A, C	A, C
⑧4マス関係表					A, C	C

④ 分数×整数の計算の仕方を書いて説明しよう。

1dLで0.8m²ぬれるペンキがあります。このペンキ4dLでは何m²ぬれますか。

式 $0.8 \times 4 = 3.2$ A. 3.2 m²

0.8 m² × 4 = 3.2

数直線図

④ 分数×整数の計算の仕方を書いて説明しよう。

1dLで0.8m²ぬれるペンキがあります。このペンキ4dLでは何m²ぬれますか。

式 $0.8 \times 4 = 3.2$ A. 3.2 m²

1 dL 4 dL

0.8 m² 4 m²

関係図

1 dLでぬれる面積 × ペンキの量 = ぬれる面積

演算決定の際の手立てとなるのが、「つばきっ子のツール」です。児童が、これらを使って、自分で考えることができるようにしていくことが大事です。これは、6年生のノートです。同じ問題ですが、左のノートは数直線図、右のノートは関係図を使っています。自分のやり方・考え方を獲得できるように指導していきたいですね。